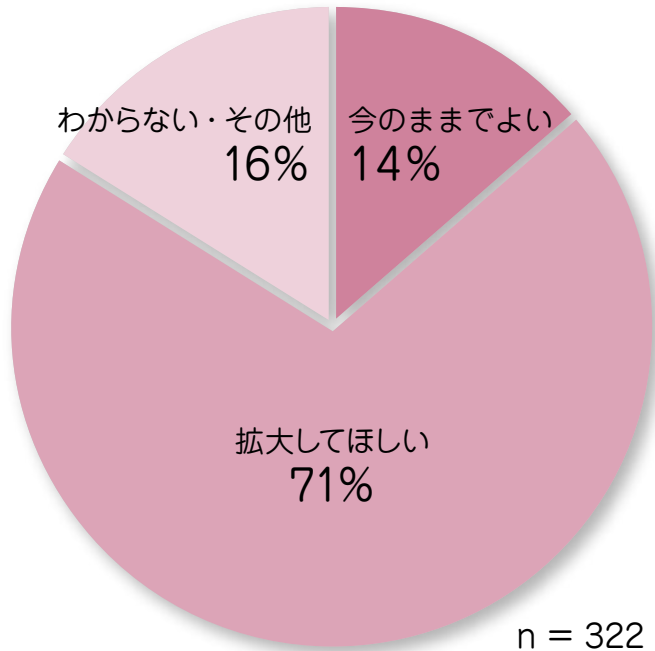


Q. 血糖自己測定の実用範囲について、 どのようにお考えですか？



この質問への患者さんの回答が医療スタッフの回答とほぼ同じであることは既に記しました。自由記述では、「医師から勧められてやっているのに保険適用にしてほしい」「2型で自己管理が不十分のためインスリンを使っている人は保険がきき、自己管理ができてインスリンが不用になると適用外になるのは納得できない」「保険適用が広がれば血糖コントロールが良くなる人が増え、医療費の削減につながるのでは」といった適用拡大を要望する意見が多いものの、「適用を拡大すると有効に活用しない測定が増えて制度が後退し、真面目に活用している人が割を食う」という慎重な意見も。ほかには「2カ月ごとに1週間、毎食前に測定して変化を確認している」という本格

派や、「測定記録を医師に渡してもよく見ない」といった不満も散見されました。

では実際に自費でSMBGをした場合、その効果はどうなのでしょう。自費でのSMBGの経験があるのは回答者の41%（現在しているが26%、過去にしていたが15%）ですが、その人たちに「血糖コントロールに役立っているか」を聞いたところ、大多数の人が「役立っている」と回答され、効果は絶大のようです。

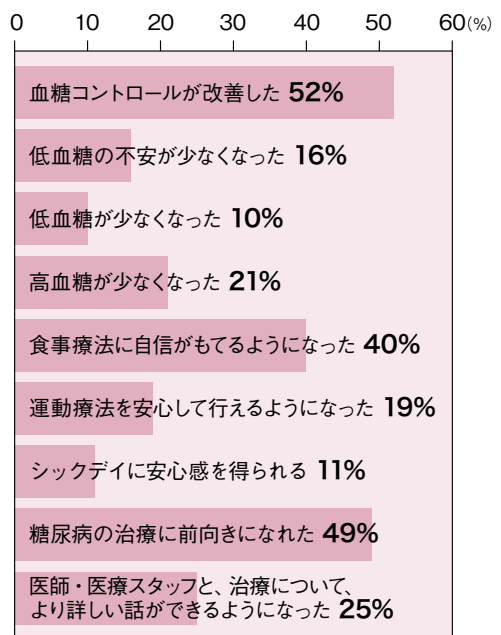
具体的に自費でSMBGを行い良かったことを選んでいただく設問に対しては、約半数の人が「糖尿病の治療に前向きになれた」とし、そのほかにも「血糖コントロールが改善した」「食事療法に自信がもてるようになった」という回答が多く、これらは医療ス

タッフが患者さんに期待することと一致して行っていました(左ページ参照)。

自費でSMBGを続ける場合、気になるのは費用です。自費でのSMBG経験者にそのコストをたずねたところ、1カ月あたり2,500～4,999円が38%、2,500円未満が27%、5,000～7,499円が14%で、残り21%は7,500円以上または不明という結果でした。このコストの問題はSMBGを続ける上で最も障害になるようで、「血糖自己測定をしていていやなことは？」という質問の答えは「費用の負担が大きい」が69%で、2位以下の「穿刺時の痛み(38%)」や「測定が面倒(36%)」を大きく引き離してトップに挙げられました。

医療スタッフにおいてもあまり認知度が高くなかった生活習慣病管理料の中でのSMBG保険適用については、患者さんではさらに認知度が低く、80%が「知らない」と答え、「聞いたことはあるが詳しくは知らない」が14%、「よく知っている」は6%にとどまりました。

Q. 自費で血糖自己測定を行ってよかったことは？ (n=132。SMBGを現在している人と過去にしていた人を合わせて集計)



Q. 血糖自己測定は血糖コントロールに役立っていますか？

